

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190200077		
法人名	合同会社 聖恵会		
事業所名	恵みハウス		
所在地	岐阜県関市大平台14-5		
自己評価作成日	令和3年11月13日	評価結果市町村受理日	令和3年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2190200077-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和3年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型施設として地域の皆様に支えられ11年目になりました。予想もしない新型コロナウイルスに見舞われ、今年も思うように外出できず面会も差し入れも禁止しています。しかしガラス越し面会は10分までとさせていただいています。地域とのふれあいや外食や喫茶店ツアーも残念ながらできずかろうじてテイクアウトでお好きなメニューを購入してきて食べていただいています。それでも敷地内散歩や畑の見回り、室内でのレクでの色塗り、カードゲーム、懐メロのCD鑑賞等で皆様楽しんでおられます。最近せめて紅葉見学にと送迎車で近くの塚原遺跡ヘソ・シャルティスタスをとるためにマスク装着で3回に分けてお連れし、またみたらしやたこ焼きなど購入してきて帰所して皆様と食べる予定をたてています。コロナ収束後を楽しみにしながらできることをしていこうと話合っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「隣人愛」の理念の下で、利用者だけでなく、職員やホームに関わる全ての人を巻き込んだ支援が実践されている。ホームの姿勢に共感し、元民生委員児童委員や元運営推進会議のメンバー、元利用者の家族等々が、ホーム運営に協力を惜しまない。ホームの畑での「芋掘り」には、地域から応援団が集まった。その数日後の誕生日会では、「芋掘り」で収穫したさつま芋料理が卓上に上がった。コロナ禍によって外出は自粛しているが、利用者の閉塞感を払拭する目的で、紅葉狩りに出かけた。久しぶりのドライブに、利用者にいきいきとした表情が戻ってきた。利用者2名の誕生日を祝う「誕生日会」では、プレゼントの贈呈に感極まって利用者が涙を流す場面もあった。ホームでの暮らしに満足した利用者の涙に、「人生の幸せ」を見る思いであった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当施設の理念は「隣人愛」であり、相手の立場に立った介護ができるよう利用者様の希望を心にとめている。	「隣人愛」を法人理念とし、分け隔てのない支援を実践している。周りの人たちもホーム運営に協力を惜まず、元民生委員や元運営推進会議のメンバー、元利用者の家族等が「奉仕」に訪れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度もコロナ禍にあり、感染予防で地域交流ができず、前に利用された方の家族様が人形や自宅に咲いている花をくださいまして皆様に楽しみました。	コロナ禍によって地域との交流・連携が途絶える中、恒例となった秋の「芋掘り」には地域から応援の人たちが集まった。外食は自粛しているが、テイクアウトで地域のお店を使っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症とは実践でスタッフ間で介護の体験をしながら皆さんで覚えて統一ケアをして反応をみながら工夫をしています。当施設から施設長ケアマネが認知症キャラバンで包括と地域の活動に参加しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度もコロナ禍で文書で運営推進会議を持ちました。市役所包括地域の役員さんや利用者家族様からご意見ご示唆をいただいている。	書面開催が続いていた運営推進会議であるが、やっと対面開催の目途が立ってきた。書面開催時には、ホームの状況をより詳しく伝えるために、会議の議事録にカラーの写真を載せていた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議やわからないことなど気軽に聞いたりして教えてもらったりしている。市役所に行くとき名刺で名前を覚えていたりしている。	運営推進会議が書面開催となっていることもあって、市の担当者が変更になったが挨拶ができない状態が続いている。コロナが下火になれば、関係構築のために市(担当者)を訪問する予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠は一人対応時のみであり、あとは自由に行き来されている。身体拘束の3つの条件つまり緊急性、代替がないこと、一時的であることを普段からスタッフ間で話し合っている。	毎月、身体拘束適正化のための委員会を開催している。やむを得ず身体拘束している2名の利用者(安全ベルト、拘束服)について詳細な報告書を作成し、運営推進会議のメンバーに報告書を送っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はあってはならないことであり、虐待の解釈で利用者様のプライドを傷つけること無視することなどその範囲について普段から話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について社協に携わる方からも話を聞いたり研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時は一つ一つ納得がいくように説明して質問に答えている。疑問に思うことがあれば苦情相談の施設長ケアマネにいつでも話して下さるようお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様には何でも話して下さるよう遠隔地の家族様はパソコンメールでまたちよつとしたことにはショートメールで連絡しあっても確認できるようにしている。	家族の面会希望が強く、条件付きで面会を認めている。立ち会う職員が必要なため事前の予約を条件とし、玄関でのガラス越しでの面会に限定している。その際に、家族の意見や要望を聞き取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場職員の意見はなるべく聞くようにしている。日常現場での困りごとや利用者様の情報など傾聴している。	外国籍の職員が多く、意思の疎通を図るために様々な工夫をしている。日本語が理解できない職員には、日本語と母国語を話せる職員が通訳したり、スマホや翻訳機を使ったりしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の希望をそれぞれ聞いてなるべく公平になるよう心掛けている。勝手な要望であってもじっくり聞くようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	殆どの職員が痰吸引や経管栄養についての研修を受け資格取得に意欲を持っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネの集まりや施設にいろいろな研修の誘いがあり、ズームであろうと参加して意見交換をして視野を広げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規利用者についての情報をなるべく早くから現場に流し、十分な理解をもって迎えられるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新規利用者家族の不安や相談など何でも話を聞き、物を言いやすいようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者が今何を必要としているか現場で話し合い、いつでも調整できるよう共通理解を持てるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	新規で入所された方が不安を抱いておられ、介護職が安心できるように配慮するがやはり長くおられる利用者様が声をかけ「がんばりましょう」と握手されるなどほほえましい面が見受けられる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人についての情報が全部わかっていることなどありえないので家族様がコロナ禍にあって硝子越しではあるが面会に来られた時に新しい情報をいただける。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	まだ入所されたばかりの方ではあるが五月を育てるのが自慢で娘様が持ってこられたが居室に置けず玄関に置いた。帰宅願望が強く落ち着かれるまで一緒に見に行くのは今は控えている。	馴染みとなった「絵手紙レク」も、コロナ禍のために講師の受入れを自粛している。絵心のある職員が講師の代役を務め、利用者は絵の具を使って絵を描いたり色鉛筆で塗り絵を楽しんだりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	帰宅願望や頻回のトイレで何とか夢中になれることをスタッフで考え出しゴミ容量減量の為紙をちぎる作業に皆様夢中で仕事と思われている。しばしトイレも帰宅も忘れておられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も気にして下さりご自宅の花をたくさん下さったり「恵さんの車いつも見かけるよ」と言ってくださって忘れないでいてもらいありがたく思いました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	野球の好きな方がおられ、スポーツ新聞を取っておられ居室に籠ってテレビを見ているのではなくて食堂で他者様とスポーツ観戦をして応援される。	野球が好きな利用者のために、家族がスポーツ紙を持ってきている。「野球観戦に連れていきたい」との家族の思いがあり、コロナ収束後には実現に向けての支援が始まる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	若い時から仕事しかしてこなかった利用者様が多く数字合わせや色塗りが仕事とらえておられる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	洗濯物をたたむ仕事を皆様でもらっている。ただしたんだものを自分のものと思って居室にもっていかれる方がいるのでこちらできをつけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	新しく利用されたばかりの方で帰宅願望強く精神科の薬の管理にあるので家族様や介護職そして病院や前のケアマネさんからの情報を何度も話し合い統一ケアにつなげている。	野球観戦に限らず、利用者の意向は外出や外食に関するものが多数を占める。長引くコロナ下にあつて、意向を反映させた介護計画の作成は困難な状況である。レベルダウンによる見直しも増えてきた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	外国籍職員が多く介護記録にワンフレーズしかないがそのフレーズに利用者様の様子が克明にわかることがある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新規利用者様の帰宅願望に家族様の顔を見るとよけい不穏になられるためコロナ禍の厳しい面会に硝子越しになるようCMがおとりになっておしゃべりしているところをそっと眺めていってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度もコロナ禍にあり、地域交流も困難でせめて芋ほりに家族様や近所のかたに声をかけてお手伝いをお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	神経因性膀胱障害の利用者様の2週間ごとのカテーテル交換に家族様の協力で恵みクリニックにお連れいただいている。クリニックには予め予定を渡して数日前に電話を入れている。	経営母体の医療機関がかかりつけ医となっており、月に2回の訪問診療を受けている。急変時にはすぐに駆け付けられる距離にあり、施設長が看護師資格を有することも安心材料である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	恵みクリニックのナースが週に3回施設に来るので利用者様のちょっとした変化にも相談できたり、ドクターにつなげてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様入院時にはドクターの紹介状、退院時にはクリニックドクターへの診療情報提供書をお願いして施設に情報を提供してもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様一人一人状態が違うので緊急時はもちろんの事起こりうる事態を想定してクリニック院長、家族様、施設との話し合いで今後の支援について話し合っています。	結果として看取りとなることはあり得るが、原則ホームでの看取りは行わない方針で支援している。重度化に際しては、かかりつけ医も含めてホームと家族が支援の方針を話し合い、双方が納得した移行(転居)となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDやノロウイルスセット吸引器保管場所を現場で確認している。日々利用者様に起こりうる事故を想定して注意を促している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設の防災訓練が年に二回あり、1回は消防署の協力を得ている。今回はコロナ禍にあり、利用者様外出ができず、施設内の訓練のみでした。	丘陵地にある住宅街の一角に立地しており、ハザードマップ上では警戒無指定地域である。災害時に備えて発電機が装備され、約1週間分の食糧備蓄を持っている。	管理層はBCP(事業継続計画)の作成を検討している。他事業所の作成事例を検討し、万全の緊急体制を構築することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の方の集まりで言葉や所作の在り方でお一人お一人どう反応されるかをスタッフ全体でつかんでおき、対応も統一しています。	利用者や家族の希望もあって「名前にさん付け」で呼びかけることもあるが、呼称の基本は「苗字にさん付け」としている。外国籍の職員にも、日本の「礼節」や「敬意」、「思いやり」を指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	皆様帰宅願望が強い方が多く、「帰る」という希望に必ず共感して現場にゆとりを持たせるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食堂で皆様と一緒に過ごされるが居場所ができています。することもほぼ決まっています退屈されないよう大きなトランプやレクの用意をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で整容できる方には手を出さず剃刀と石鹸を渡して見守っている。自分できれいにされ、剃刀や石鹸はスタッフが必ず預かっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会など行事にはコロナ禍にあり、希望のメニューをテイクアウトで購入してくる。おやつは月曜は小さめのアイスクリームを提供している。自分で食べられない方もアイスクリームは自分で食べられる。	朝食は職員の手作りであるが、昼食と夕食は外部の配食サービスを利用している。コロナ禍により、併設の小規模多機能事業所と合同で行われていた誕生会は、分散誕生会に変更されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	留置カテーテルをずっと装着しなければならない方や自尿の有無を確認しなければならない方など必ず1日の水分摂取量を0時に夜勤者がトータルして記録し、またカテーテルの方はやはり0時に廃棄量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼食後や夕食後の口腔ケアをします。また口臭や汚れが気になる方は月に2回歯科医や歯科衛生士がこられ、ケアを受けてもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位の難しい方でも時に意欲的に立って下さるときがあり、早朝にそのチャンスがあることがわかり、おむつでなくてトイレで排泄できることがあるので励みになっている。	排泄チェック表を活用し、トイレでの排泄を支援している。排泄の自立度がダウンしており、利用者全員に対して排泄後の確認が必要となっている。ポータブルトイレの利用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	リーダー中心に排便管理をしている。3日排便しない時は3日目に浣腸をしているがクリニックが便秘薬処方して下さっていて浣腸使用はほとんどない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2週間に1回の留置カテーテル交換の方や受診にお連れする方などその時を避けて入浴してもらっている。	異性介助を含む入浴の拒否はなく、円滑な入浴支援が行われている。小規模多機能事業所が併設されていることから機械浴槽が設置されており、必要に応じて使用が可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢で昼食後少し午睡したい方には居室で少し休んでいただき、2時半のラジオ体操には起きてもらい、皆さんで歩行される。コロナ禍で廊下歩行にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフが分かりやすいように「これは腰や足が痛いのに効きません」と説明している。理解力がある利用者様にはうなずきながら服薬しておられる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	仕事ばかりしてきた利用者様にはレクも仕事として提供している。トイレに行ったことを忘れて頻回行く方がトイレに行くことを忘れてる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出はできず、ハウスの敷地内や畑の見回りにお連れしている。コロナ収束すれば自宅に泊られたり、外食や喫茶店にお連れできるが今は厳しい状況である。	基本的には外出自粛中であるが、利用者の閉塞感を払拭するために秋の紅葉を見に出かけた。ホームの畑での芋掘りも、貴重な気分転換の機会となった。ホーム周辺への散歩は日課となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様からお金を預かり、事務で管理しているが外食できれば利用者様と一緒に支払うこともできる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方にいるご家族が電話されたり、こちらからメールして写真を送ったりしている。また利用者様のご親族が定期的に絵手紙を送ってこられたりする。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ハウス利用者様それぞれの写真を貼って紹介したりお花をもらったら食堂の真ん中に飾ったりするがなるべくシンプルにして場所をあけるようにしている。	訪問調査日当日、2名の利用者の誕生会が催された。「Happy Birthday」を全員で合掌し、職員からお祝いの品がプレゼントされた。熱い思いがこみ上げた利用者の流れる涙に、「人生の幸せ」を見る思いであった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前のソファはA様、真ん中のソファはB様C様と自然に居場所が決まってくる。皆様の好きな懐メロを流している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様から預かったお孫様の写真が成長されるごとに節句の写真など居室壁面に貼っている方もあれば今までの誕生会の色紙を貼って眺めている方もおられる。	コロナ感染防止の観点から、居室の見学を自粛した。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	難聴、収集癖、不潔行為をする方、帰宅願望で絶えず出口を探している方などを考えてとにかくシンプルにして車いすが祐に通れるようにしている。		